

懇話会会長挨拶 先生、頑張ってください。  
埼玉県技術・家庭科懇話会  
会長 羽島 隆夫

研究会会長あいさつ  
埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会  
会長 安藤 義仁  
(蓮田市立黒浜中学校長)

今年は、東日本大震災の発災から12年、今日までの道のりは長かったのか、短かったのか。

12年前、何をしていたのか、どこに居たのか思い起こして下さい。「天災は忘れた頃にやってくる」とは、物理学者・防災学者の寺田寅彦の残した言葉。関東地方も何時あのような震災が起きてもおかしくない状況にあるといわれている今日、日頃の防災対策を改めて見直しては如何だろうか。

先日、埼玉県内の中学校に刃物を所持し「刺すのは誰でもよかった」と侵入した少年がいた。学校という場所も決して安全が確保されている場所ではないということか。当該の学校は丁度期末テストの時間であったというが、もし技術・家庭科の実習中の教室でこのような侵入事案が発生したら、どのような状況になっていたのか、想像するだけでも恐ろしい。しかし、教師たるもの、いかなる状況においても児童・生徒の安全は身を挺してでも守らなければならない。事故のあった学校で少年に刺され、重傷を負った先生の一日も早い回復を願うのみである。

来年度から定年制の延長が取り入れられ、令和6年末は61歳が定年となる。これは複雑高度化する行政課題への的確な対応として、能力と意欲のある高齢期の職員を最大限活用しつつ、次の世代にその知識、技術、経験などを継承していくための措置とされている。60歳で定年、後は悠悠自適の生活といった世界は過去のものとなった。今後令和14年の春に、定年は65歳まで段階的に引き上げられる。このことをしっかりと理解し、今後の生活設計を立てていく必要がある。

この原稿を書いている時、WBC対アメリカ決勝戦9回の表、2アウト、2ストライク、ピッチャー大谷の投げたボールでアメリカのトラウト選手が空振り三振となり、WBCの日本優勝が決まった。普段余り野球に関心の無い人も「にわか野球ファン」として歓喜している事だろう。凄いぞニッポン。負けずに頑張ろう先生方。明日の日本を支える子ども達のために。

埼玉県中学校技術・家庭科懇話会の羽島隆夫会長様をはじめ会員の皆様方には、物心両面からの御理解・御支援いただき衷心より御礼申し上げます。コロナ禍における規制がかかる中で、関係者への情報提供のためにホームページ整備や会員拡充のための様々な工夫や検討が進められているということが、世代交代が進む本教科の将来にとって大きな力になると思っております。当研究会も折に触れて懇話会様との関わりや入会案内等の情報提供をさせていただいております。

令和4年度の後半より、ようやくコロナ禍による様々な制限が緩和され始め、当会も支部長会・専門委員会等が参集・対面で行えるようになってきました。令和4年度の事業として、生徒の参加するSAITAMA創造ものづくり教育フェアや、県内の技術・家庭科関係者担当へ、広く本会の研究結果を周知して質問や意見をいただける機会となる教員研究発表会が、参集型で再開できたことは大きな成果でした。文部科学省教科調査官の渡邊茂一先生に御来場いただき、本県の研究に対する御指導も含んだ御講演をいただけたことも大きな成果となりました。

会の運営に関する数年間のブランクに加え、世代交代が起こっているために課題は多々ありますが、令和5年度に各事業を以前のように再稼働させると共に、時代に即した改善を図ってまいります。これまで様々な情報提供を行ってきたホームページに加えて、この度、会の運営と成果の広報等のためオンラインストレージを確保して新たなシステムの整備をし始めたところです (<http://saitama-gika.jp>)。 関ブロ埼玉大会を4年後に控え、研究情報を効率よくまとめ、県全体のレベルをさらに上げ、維持して、発表に繋げられるようにして参ります。働き方改革に伴う集会の制限はまだありますが、知恵と創意工夫を結集して、対応・解決を目指しております。

結びに、当研究会への変わらぬ御理解、御支援、御厚情と共に、引き続きの御指導御示唆をいただけますよう御願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。